

らに燃え広がっている。被占領地全土での蜂起は、シオニスト占領軍の苛酷な弾圧政策にも、ひるむことなく、民族の解放と自由のために闘いぬかれている。この蜂起は、シオニスト軍の士気を低下させ、シオニストの指導部に深刻な分裂を引き起こしている。その危機の深刻さからシオニストは、その残虐さを深め、また、そのテロ活動を一層強めている。

パレスチナ革命勢力は、人民自身の闘いを支えつつ、蜂起の継続的発展とその勝利のために闘いぬいてい

被占領地パレスチナ人民の蜂起は、米帝は、シオニストの危機の打開の三ヶ月を経て、衰えるどころか、さために外交展開を強め、アラブ反動る。

パレスチナ蜂起と米帝の策動

一九八八年三月一〇日

一 パレスチナ人民蜂起の現段階

一 パレスチナ人民蜂起の現段階
被占領地人民の蜂起は、パレスチナ革命の地下の統一指導部のもとで一層目的意識的に、組織的に闘われている。人民は自らの解放と自由のために、犠牲を恐れず、不屈に闘い抜いている。ゼネスト、デモは継続的に、多発的に闘われ、シオニスト占領軍に対する武器も、投石や火炎びんなどまらず、ありとあらゆるも

のを武器として闘い抜いている。
シオニストは、殺しても、殴り負傷させても、生き埋めにしても、恐れず立ち向かってくるパレスチナ人民に対してなすすべを持たなくなっている。蜂起鎮圧の最高責任者であるラビン国防相をしてパレスチナ人民蜂起を「内戦」であると言わしめた。

目 次

パレスチナ蜂起と米帝の策動	1
PFLP創立20周年にあたってのババジュ議長の インタビュー(抄訳)その2(資料①)	6
PFLP特別声明(資料②)	9
日本赤軍3・30声明(資料③)	11
丸岡同志、泉水同志の「旅券法違反」を口実とした 不当弾圧を弾劾する	13
激動の中東ドキュメント(1988年2月7日～3月9日)	14



第 33 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03)291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

る段階に入っている。ラビンが蜂起を「内戦」と規定したことは二つの側面が存在している。第一には、シオニスト軍による殺人を正当化するためにはこうした言葉を使いはじめたことである。すなわち、戦争のあらゆる手段をとることを正当化しようとしているのである。もうひとつの側面は、パレスチナ人民を「テロリスト」、「犯罪者」として扱えなくなつたことを意味している。すなわち、シオニストに対峙する政治勢力としてパレスチナ人民の存在を認めざるをえなくなつていていることを意味している。

ラビンは一月の段階において「暴

力では何も達成できないことを、たとえ二カ月かかるとも、はつきり示すべきだ。話し合いの意思がなければ軍隊と衝突するしかない」と言

いはなつていて、その根底にあるパレスチナ人民に対する懲罰を与えるというシオニストの考えは、三カ

月目に蜂起が入ることによって、「内戦」にその規定が変わった。そこにシオニストの動搖が現われている。

暴力で何もかも達成しようとしているのがシオニスト自身であり、実弾をデモに浴びせ、虐殺を繰り返している。国際世論の批判が、それに集

まるためにあらゆる手段をとることを宣言し、ついにテロによる阻止をはかった。シオニストのテロ組織モサドは、「帰還の船」にチャーチーされれたギリシャ船の船主、船長を脅迫し、船を動かせないようにした。そして、キプロスから再度試みようとしたとき、今度は、その組織化にあたっていたパレスチナ人指導者三人を爆殺し、さらに船まで爆破した。これは、シオニストがこのデモンストレーションを示すものである。

PLOはこのシオニストのテロを重視し、二月一六日アラファト議長が、被占領地以外でのシオニストのテロへの報復を自肅することを宣言した。「カイロ宣言」は、一九八五年カイロでアラファト議長が宣言したもので、国際和平会議へのPLOの参加への条件つくりとして、領外での「イスラエル」のテロへの報復の自肅を宣言していた。この破棄はパレスチナ人の当然の権利としてある。シオニストが被占領地でのパレスチナ人民へのテロ活動に止まらず、領外での平和的デモンストレーションに対してもテロをもつて、応

中するとラビンは、暴力の形態をこな棒や銃把で殴ること、すなわち、殴るためには新たな方法として打ち出したのは装甲車で小石を発射するこ

とである。こうしたことに現われて度に何ら反省はないことである。そ

れがシオニスト兵によるパレスチナ人の生き埋め事件やリーンチ事件とし

て多発している原因である。そして、シオニストが捕虜にした抵抗ができない状態でのパレスチナ人を大きな石を

使つて殴り殺そうとも、重傷を負わせる事件を引き起こしている。シオ

ニストが報道管制を敷き、外国の報道機関の立ち入りが禁止されている

ので、報道されているのは、あくまでもその氷山の一角にすぎない。

ラビンは、シオニスト兵の士気の低下や軍規の弛緩についての批判に

対して、蜂起の弾圧の訓練ができる

いないことで説明している。これは、強弁であり、シオニストによって、

その「正義」を吹き込まれたイスラエル兵が、自分たちのしていること

の不正義の現実に直面させられ、動

揺し、あるものはさらに凶暴化する

こと。また、これ以前にも、ユルツはなんの成果もつくることが

できず、一時、レーガン政権は、中

東和平問題でイニシアチブを取る気

はないと言いついた。しかし、シオニ

ストのテロは、そうした紳士的態度

にまったく應えるものではなく、逆

にそのテロを強化している。まさに

シオニストにそれを理解させるには、

人民蜂起を發展させることと、同時

に武装闘争を強化していくことが必

要とされているのである。

政治的には、米帝レー・ガーン政権の蜂起の鎮静のみを目的とした「和平」

工作が展開されており、PLOとパ

レスチナ人民はこうした動きに対し

て、明確に拒否を示している。

二 米帝の策動

米帝レー・ガーン政権は、このパレスチナ人民蜂起を鎮静させ、「イスラエル」の危機を救済するために動き出しました。昨年末のシユルツ・米国務長官の中東歴訪においては、パレスチナ人民からの見ボイコット、ゼネストに迎えられ、また、アラブ反動も、この蜂起によって投降主義に走ることができなくなっていた。シ

は、シオニスト自身であり、米帝であります。その米帝シユルツが再び「和平」なるものをもつて、蜂起の大統領選挙、レー・ガーンの任期切れを拒否した。それは、一方で「イスラエル」のユダヤ人の占領政策への反対行動の拡大として現われ、もう一方で、極社会的、政治的矛盾が拡大している。

そして、シオニストは、彼らのテロ専門の組織であるモサドを使って

右シオニストのセツラによるテロの拡大として現われ、シオニストの

パレスチナ革命との連携を断つためのテロを行っている。キプロスでの

三人のパレスチナ人指導者の爆殺は、

そのひとつである。

ラビンは労働党であるにもかかわらず、極右シオニストの首相シャミルに同調し、対話よりも力によって、蜂起を鎮圧し、占領地をあくまで放

さない立場に立っている。そして、

米国務長官シユルツが提案したキャ

ンプ・デービッドの焼き直しでしか

ない和平案にも反対している。

パレスチナ人民の鬭いは、シオニ

ストの暴力に屈することなく続けら

れる。パレスチナ人民の唯一合法の

代表であるPLOを「テロリスト」

と呼び、話し合いを拒否してきたの

は、シオニスト自身であり、米帝で

ある。その米帝シユルツが再び「和

平案」なるものをもつて、蜂起の解

決は以前にも増して深刻化している。

そこでその動搖をおさえようとし

て、米帝がイスラエルの危機に対

して、何らかの形で行動を行わなければ

は、シオニストの「和平」をめぐる分

裂は以前にも増して深刻化している。

中東レポート

月刊 中東レポート

1988年4月30日 第33号

1988年4月30日 第33号

月刊 中東レポート

ペレスは、シャミルの態度が蜂起を激化させていると非難し、シャミルは、ペレスとは一緒に交渉はできないと非難している。右翼シオニスト・シャミルは、占領地の返還に繋がる一切の交渉に反対しており、一方で国際会議方式に直接交渉を望んでいるポーズを取つてきただが、追い詰められ、その本心である被占領地の返還の意思のないことを明確にしてきている。すでに述べたように、これには、現在の占領地での弾圧の最高責任者であり、また、労働党の元首相であるラビン国防相も同調し、労働党党首で、外相兼副首相であるペレスに反対している。ペレスは、シオニストの安全のために、被占領地の一部をヨルダンに返還することによって、「イスラエル」の延命を計ろうと考えているのである。それゆえに、ペレスも、パレスチナ国家の建設に繋がることは一切承認しない立場にある。

これらのすべての勢力に共通しているのは、パレスチナ人民の唯一合法の代表であるPLOをいかに排除するかに中心をおいていることであ

る。アラブ反動は口先においては、PLOの交渉への参加を要求しているが、隠然とその排除を画策している。

非難し、反対する立場を表明した。シリアもキャンプ・デービッドの焼き直しであるとして、反対を表明した。公式的な態度は表明していないが、エジプトは、すでに各国に受け入れを呼びかけ、賛成の立場であることは明確である。ヨルダンは、PLOとの関係で、難しい立場におかれている。PLOがヨルダンとの合同代表団に同意すれば、問題なく進むであろうが、PLOはすでにこの提案を拒否する立場を表明している。

もしヨルダンがPLOを抜きにし同代表にすれば、被占領地の蜂起の火は、ヨルダンに及ぶことになる。

また、シャミルもPLOがどのような形であれ参加することになれば、より強硬に反対するだろう。PLOの承認はシオニスト自身の立場の否定につながるからである。いずれにしろこのシユルツの「不可能な任務」は不可能に終わることだけは確かなることである。そして、シオニストは、その国論の統一を総選挙の実施によつて、計らなければならぬ状況に追いつくことになる。

一方、ガルフ戦争の状況と外交展開でも米帝の破産はますます明らか

ペレスは、シャミルの態度が蜂起を激化させていると非難し、シャミルは、ペレスとは一緒に交渉はできないと非難している。右翼シオニスト・シャミルは、占領地の返還に繋がる一切の交渉に反対しており、一方で国際会議方式に直接交渉を望んでいるポーズを取つてきただが、追い詰められ、その本心である被占領地の返還の意思のないことを明確にしてきている。すでに述べたように、これには、現在の占領地での弾圧の最高責任者であり、また、労働党の元首相であるラビン国防相も同調し、労働党党首で、外相兼副首相であるペレスに反対している。ペレスは、シオニストの安全のために、被占領地の一部をヨルダンに返還することによって、「イスラエル」の延命を計ろうと考えているのである。それゆえに、ペレスも、パレスチナ国家の建設に繋がることは一切承認しない立場にある。

これらのすべての勢力に共通しているのは、パレスチナ人民の唯一合法の代表であるPLOをいかに排除するかに中心をおいていることであ

る。アラブ反動は口先においては、PLOの交渉への参加を要求しているが、隠然とその排除を画策している。

この最初のシャトル外交では、マ

リーフィーが各国に提案した、米帝の「和平案」について討議された。こ

の案は、第一に、この夏までに占領

地でヨルダン、エジプト、「イスラエル」が指名する委員会の管理のも

とで自治体選挙を実施する、第二に、

選挙前にアラブ人地区から「イスラエル」軍は撤退し、警察権はヨルダ

ンに委ねる、第三に、選挙の実施で合意すれば、シユルツが四月に両地区を訪問し、国際和平会議の開催を

するが、隠然とその排除を画策している。

この絶望的な結果をもって、シユルツはレーガンと打ち合わせた。

この最初のシャトル外交では、マ

リーフィーが各国に提案した、米帝の「和平案」について討議された。こ

の案は、第一に、この夏までに占領

地でヨルダン、エジプト、「イスラエル」、アラブ諸国に回答を要求し

た。この提案は、国際会議を四月に開き、その一ヵ月後に、被占領地の最

大限自治の期間を三年ではなく、五年とすべきであるとして、反対の意

向を表明している。ペレスは、三月

一日のシャミル訪米前に、政府見

合意すれば、シユルツが四月に両地区を訪問し、国際和平会議の開催を

するが、隠然とその排除を画策している。

この絶望的な結果をもって、シユルツは、エジプト、ヨルダン、

アラブ反動は、PLOの交渉への参

加、国際会議の開催という公式的な立場を繰り返したとされる。シリア、

アラブ反動は、PLOの交渉への参



アル・ムスタクバル 1/25/88号

69

たことを意味しない。

PNCへの参加は、PLO支持の重要な基準である。PFLPは、PLOの中で自らの信念を貫きえないという特別の理由のある場合を除いて、PNCに参加した。第五回と第一七回PNCについては、我々は論議のなかで、アラブ反動を敵の規定のなかに含めることを提案した。これは、ヨルダン政権との闘争とパレスチナ革命内のアラブ反動の立場を

たことを意味しない。

PNCへの参加は、PLO支持の重要な基準である。PFLPは、PLOの中で自らの信念を貫きえないという特別の理由のある場合を除いて、PNCに参加した。第五回と第一七回PNCについても、我々は論議のなかで、アラブ反動を敵の規定のなかに含めることを提案した。これは、ヨルダン政権との闘争とパレスチナ革命内のアラブ反動の立場を

切り崩すことを念頭に置いていた。(受け入れられなかつたので)大会に不参加にもかかわらず、我々は四〇回に及ぶセミナーを開いて我々の立場を説明した。

第一七回大会については、知られているように、DFLPを含む他の組織も我々に加わりボイコットした。これは、アンマン合意を支持する特別の政治路線が支配的になつたためである。

PLOの執行委員会への参加につ

いては、PNC一二回大会から一四回まで、ボイコットした。ファタハの不参加にもかかわらず、我々は四〇回に及ぶセミナーを開いて我々の立場を説明した。

第一七回大会については、知られているように、DFLPを含む他の組織も我々に加わりボイコットした。これは、アンマン合意を支持する特別の政治路線が支配的になつたためである。

PLOの執行委員会への参加につ



PFLP蜂起日報より

ヨルダン派パレスチナ人を使って、PLOの領内での影響力を低めようとしてきた。しかし、蜂起は、パレスチナ人民がPLOとともにあることを明確に表明し、PLO抜きに解決はないことを知らされた。そこでPLO内の右派潮流の抱き込みしかのこされていない。PLO内では、人民戦線などの左派が右翼的な傾向に対し、闘争し、PLOの原則的政治展開をつくりだそうとしている。

人民戦線は、被占領地内の闘いをとおして、人民委員会を組織し、全面的な不服従運動として、蜂起を発展させようとしている。これは、一切のシオニストの支配を拒否する闘争としてある。この蓄積をとおして、人民の武装蜂起を実現することを強調している。同時にこの蜂起の長期化をもって、パレスチナ人の政治的地位を高めようとしている。

また、総司令部派は人民の武装蜂起としての発展と外からの軍事的な展開を軸にパレスチナの全土解放を打ち出しており、人民の組織化を軍事的な抵抗を軸に行っている。いずれにしても現段階の蜂起に対して、統一して闘いを作り出そうとしている。

ヨルダン派パレスチナ人を使って、PLOの領内での影響力を低めようとしてきた。しかし、蜂起は、パレスチナ人民がPLOとともにあることを明確に表明し、PLO抜きに解決はないことを知らされた。そこでPLO内の右派潮流の抱き込みしかのこされていない。PLO内では、人民戦線などの左派が右翼的な傾向に対し、闘争し、PLOの原則的政治展開をつくりだそうとしている。

人民戦線は、被占領地内の闘いをとおして、人民委員会を組織し、全面的な不服従運動として、蜂起を発展させようとしている。これは、一切のシオニストの支配を拒否する闘争としてある。この蓄積をとおして、人民の武装蜂起を実現することを強調している。同時にこの蜂起の長期化をもって、パレスチナ人の政治的地位を高めようとしている。

また、総司令部派は人民の武装蜂起としての発展と外からの軍事的な展開を軸にパレスチナの全土解放を打ち出しており、人民の組織化を軍事的な抵抗を軸に行っている。いずれにしても現段階の蜂起に対して、統一して闘いを作り出そうとしている。

人民の不服従運動は、ついにパレスチナ人警官の集団辞職を生み出している。これらの警官はシオニストの占領政策に加担させられていた。とりわけ、蜂起が始まつてから、この警官たちを、シオニストは橋として使い、パレスチナ人同士の対立をつくろうとしてきた。この警官たちは平時は、交通整理などの仕事をさせられてきたが、この蜂起でシオニストの橋として使われ、他のパレスチナ人からは裏切り者として非難の対象となっていた。彼らはPLOの呼びかけにしたがつて、パレスチナ人としてシオニストと手を切り、抵抗に参加することを宣言した。さらに税務署員なども同様の行動を開始している。

しかし、同時に、パレスチナの人

民蜂起をさらに発展させていくには未だ多くの障害が存在している。シオニストは、今回の蜂起で、政治的に敗北的状況に置かれているが、シオニストの支配の転覆に至るまでは、さらに困難な道程がある。シオニストはベトナムにおける米帝と違い、撤退する先を持つていないし、また、フィリピンにおけるマルコスのよう

に自己の人民と対峙しているわけではない。シオニストは、民族として、その問題は、アラブ反動が、政治解決の形で、パレスチナ人民蜂起の成果を奪いざり、シオニストとの共同支援をパレスチナ人に対して行おうとする策動を続けていることである。

これらの障害を乗り越えていくためには、蜂起をさらに強め、人民自身の力を打ち固めていく必要があり、それによって、アラブ反動の策動に歯止めをかけていくことである。そ

して、シオニストの実態を暴露することによって、「イスラエル」内で構成を変えています。

三、PFLPとPLOの関係について

① この数年間の関係の変化について

PFLPは、PLOの指導機関への参加、不参加の問題は、たんにPLO内で、民族的統一の強化とPLOの目的を前進させるようになつた。しかし、我々は、PLOの政策決定者ではなかつた。PLOの指導部の右派ヘゲモニーと民主的実践のなさの前で、我々ができることは何か。それは、閉じられたなかでの論議を大衆の前に明らかにすることができた。我々は、そのためには、アラブ反動をとつた。

この不参加の戦術は、アンマン合意を破棄するPNCを勝ちとつたよう

に成功し、PLOの制度と指導部を結び付けることに成功し、PNCでアラブ反動を敵として規定した。しか

し、理論的勝利と実践的勝利は違つ

った。過渡的目標と戦略的目標を結ぶことに成功し、PNCでアラブ反動を敵として規定した。しかし、理論的勝利と実践的勝利は違つた。過渡的目標と戦略的目標を結ぶことに成功し、PNCでアラブ反動を敵として規定した。しか

し、理論的勝利と実践的勝利は違つ

た。

PFLP創立二十周年にあたってのハバショウ議長のインタビュー（抄訳）その2

資料①

中東レポート編集部の責任で、構成を変えています。

— PFLP「民主的パレスチナ」誌二七号（八七年一二月号）のインタビューより。

（抄訳）その2

（抄訳）その2

（抄訳）その2

度も実行しなかった。

(2) パレスチナ指導部の危機について
民族的問題を指導するブルジョアジーのジレンマと労働者階級がこの問題を指導するときに直面する困難とは違う。パレスチナ民族運動のジレンマは、アラブ民族解放運動の危機の一部としてある。

現段階において、ブルジョアジーの歴史的役割は、衰退し、民族解放の任務を維持し、完了させることは、不可能はない。問題は、ブルジョアジーが政治的解放の段階に至る前に、政治解決することを支持していることである。左派自身をどのよう発展させるかという問題である。左派が指導権をにぎるために、二つの要素が必要である。第一には、ゴールに至るまでの左派の達成物を蓄積していく長い歴史過程である。第二に、民主勢力の統一である。我々は第四回大会以降、左派の統一に努力している。

四、パレスチナの全土解放と現段階

① パレスチナ国家とパレスチナの独自の決定権のスローガンに

ついて

帝国主義—シオニスト—アラブ反動の陰謀に対決するためにパレスチナのアイデンティティを強調することは重要である。シオニストは、「イスラエル」内のパレスチナ人を「イスラエル」人に同化しようとして、それ以外のパレスチナ人は、他のアラブ社会に同化させようとしている。

これに対して、パレスチナ国家とその物質化としてのPLOを防衛することは重要である。

パレスチナの独自の決定権の問題は、アラブの政権の戦争準備ができるまで待てという論理に対するものである。我々はパレスチナの解放が全アラブ民族の闘いであり、全アラブの勢力との共同した努力によってのみ発展させることができることを理解している。平和か戦争かの決定は、すべての誠実なアラブ勢力と共に、共闘するパレスチナ革命によつて、とられるアラブ民族の決定である。

② パレスチナ全土解放と現段階

「イスラエル」が核を持つていることは、全土解放の過程を妨げるものではないことを確信している。未來について正確に予言するのは困難であるが、この地域での帝国主義—シオニスト—アラブ反動の陰謀を撃退する中でイニシアチブをとるよう呼びかける。

パレスチナにおける持続的な総蜂起は、国際団体や機関、とくに国連安保理と総会で、我々の民族的権利を支持する新しい質の決議を獲得するため、あらゆる形態の闘いを前進させることを我々に問う新しい客観条件を生み出した。これはまた、我々の帰還、自決、独立、パレスチナ国家建設の民族的諸権利を支持する我々の原則的友人である、アラブおよび国際的な同盟者、とりわけ、ソ連を筆頭とする社会主義諸国の支援によっても完全に達成されるだろう。これらの諸権利は、遂に離れていた。

日本赤軍三・三〇声明

資料③

わが人民の英雄的蜂起万歳！
殉死者に栄光を！
我々は勝利する！

スが変化すればシオニストも考えを変えるだろう。すなわち、民主的パ

ーティーの考え方について、パレスチナの「市民」になると考えをもとつて「安全」であるとを考えを変えようになるだろう。ソ連は、アラブ—シオニストの紛争において、パレスチナ人の権利を社会に同化させようとしている。

現在のパレスチナの闘いの経験は、パレスチナ革命の内と外での弁証法的関係を維持すること、それは、アラブ前線国家の具体的意義と特殊性によって、とりわけ、ヨルダンに根拠地をつくりあげることの重要性を明確にしている。失敗や困難は、どのようなものであれ、これらの諸事実を放棄させるものではない。

ヨルダンでの問題は、一九七〇年以前に、ヨルダン大衆とその革命勢力との正しい関係をつくることに失敗したことによる。失敗や困難は、どういったものでもある。これは、パレスチナ人の多くが祖国の外に追い出されており、シオニスト—帝国主義という敵に対する闘争の性格から、この考えが生まれていている。

これは、パレスチナ革命の実践的に正しく、パレスチナ革命の条件にあつたものである。

これは、パレスチナ革命は、大きな困難に直面してきた。それゆえにこの考えが失敗と見られるのだろう。ヨルダンでは、我々の存在を堅実で強固なものとしてつくりあげることに失敗した。現在、レバノンのパレスチナ革命は、いくつかの要素によってつ

か？あなたの方の首都が死んだように沈黙している時に、ヨーロッパの首都でデモが行われ、大衆運動が沸き起こっているのはなぜか？

我々はアラブ世界、とりわけエジプトとヨルダンのアラブ大衆およびアラブ民族的進歩的勢力に、あらゆる手段をもつて、我が人民の蜂起への連帯を表わす行動を起こすよう呼びかける。

我々はエジプトとヨルダンで起きた大衆運動を高く評価するものであるが、エジプトの民族主義勢力とアラブ民族的進歩的勢力に、あらゆる手段をもつて、我が人民の蜂起への連帯を表わす行動を起こすよう呼びかける。

我々はまた、ヨルダンの大衆と民族主義勢力に、その活動を拡大し、我が人民の蜂起への連帯を表明しようとした民衆主義者と民族主義勢力のメンバ―に対して、ヨルダン当局が行った逮捕キャンペーンを非難するよう呼びかける。

PFLPは、シャズリ・ベン・ジャディド大統領が、蜂起を支援する方法と言葉を実行に移す必要性を討議するためのアラブ首脳会議召集を呼びかけたことを支持する。我々はアラブの愛国的政権に蜂起が十分な拡張を達成できるよう、我が人民への物質的支援を増進するようとく

に呼びかける。我々はすべてのアラブ民族主義者と進歩勢力にアラブ大衆を動員し、アラブ民族解放運動の状態を改造し、この地域での帝国主義—シオニスト—アラブ反動の陰謀を撃退する中でイニシアチブをとるよう呼びかける。

パレスチナにおける持続的な総蜂起は、国際団体や機関、とくに国連安保理と総会で、我々の民族的権利を支持する新しい質の決議を獲得するため、あらゆる形態の闘いを前進させることを我々に問う新しい客観条件を生み出した。これはまた、我々の帰還、自決、独立、パレスチナ国家建設の民族的諸権利を支持する我々の原則的友人である、アラブおよび国際的な同盟者、とりわけ、ソ連を筆頭とする社会主義諸国の支援によっても完全に達成されるだろう。これらの諸権利は、遂に離れていた。

この中東での反動的流れは、米帝のS D I 、「L I W」をもつての社会主義諸国を含む世界の反帝勢力に対する軍事冒険主義的攻勢の一貫としてありました。この米帝の策動は、世界各地での緊張を高め、また、核戦争の危機をつくりだしてきました。こうした米帝の策動に対して、反帝勢力は、社会主義諸国、反帝進歩国家の国家レベルの展開として、平和攻勢による米帝の政治的孤立化によつて、米帝の戦争政策をおし止めようとしてきました。他方、各国の革命の途上にある反帝勢力は、その方向に共同しつつ、帝国主義と反動

勢力に対する闘いを闘いぬいてきました。

そして、パレスチナ革命においては、PFLPをはじめとする旧民主同盟を軸としたパレスチナ革命の指導部の統一の努力として闘われ、昨年四月のPNCの統一大会での再統一を果たしてきました。

パレスチナ革命の置かれたこの困難な情況に対し、被占領地人民は、立ち上がり、投降主義を拒否し、自らの手で民族の解放を勝ちとる意志を表明したのです。この闘いは、アラブ反動の投降主義へのなだれ込みを粉碎したにとどまらず、米帝の中東支配の野望を破産させています。

そして、シオニストの占領政策を破産させ、シオニストを深刻な分裂に追いやっています。そして、パレスチナ革命の正義を世界に理解させました。これは、パレスチナの闘いがした。「テロ」であり、PLOが「テロリスト」であるという米帝とシオニストのデタラメを暴露し、米帝、シオニストこそがテロリストであること

一、
我々日本赤軍は、日帝公による丸岡同志、泉水同志の「旅券法違反」を口実とし、不當弾圧を弹劾する
一九八八年二月五日
日本赤軍

資料④

二、
この不當検査の意図は明確である。丸岡同志の逮捕を利用し、第一に、「赤軍関連者」としてデツチ上げることによって、大衆的な運動の破壊とそれを担っている人々への虐殺を狙つたものである。第二には、我々と大衆的な闘いとを切り離すことにあつて、不當弾圧を行ふことによって、我々の責任によつて、不當弾圧が行われたことを印象づけようとしているのである。第三に、これまでに、西欧、米帝が行つてゐる二〇〇箇所余りにおよぶ不當検査を行つた。不當検査を受けた人々は、「旅券法違反」とまったくかわりがないばかりか、丸岡同志、泉水同志とのかわりも一切ない人々である。これはブルジョア民主主義をも踏みにじる暴挙である。

家宅検査にあつた公安が、その不当性に抗議する人々に吐いた「かかわりがあるかどうかは、我々が判断する」という言葉に検査の本質があらわれている。すなわち、何らそのかかわりを示すものがなくとも、公安が「かかわりがある」と判断するだけで家宅検査ができるというのである。まさに、これはファシズムである。

スチナ人民の蜂起は、フィリピン人の闘い、韓国人民の闘い、エル・サルバドルを始めとする中・南米人民の闘いが情勢を主導する時代を切り開いています。

二、
パレスチナ・アラブ人民の蜂起への直接的連帶行動に止まらず、ともに、人民が主導する時代を切り開くことでもあります。

とりわけ、日本帝国主義が、米帝との間で激化している帝国主義間矛盾の緩和と日帝自身の政治的、軍事的影響力の拡大のために、破綻していく米帝の世界支配を積極的に支え、補完しようとしていること。それは、日帝が米帝と並んで世界人民の第一の敵として、登場していることを意味しています。

中東においても、米帝のガルフ戦争への軍事介入に対し、直接的、間接的支援に止まらず、生命線である米帝の援助を期待できなくなつたシオニスト「イスラエル」への経済協力を進めるなど、破綻している米帝の中東戦略を積極的に補完しています。

これは、極東での日米韓反革命同士の連帯を堅持し、パレスチナ・アラブ人民の蜂起は、必ず勝利できるということです。シオニスト占領軍は、世界で最も対しても、人民の死をも恐れぬ不屈の意志と敵に対する統一した行動があれば、あれは必ず勝利できるということです。シオニスト占領軍は、世界で最も実践経験を持った軍事組織であり、米帝の支援によって最新兵器で武装しています。この歴史まで武装した軍隊が、石や身の回りのもので武装するしかしない人民の統一した行動の前で、敗北状況に置かれています。

また、この蜂起の特質は、パレスチナ革命の置かれていた困難な状況を打ち破ることを、人民自身が目的意識として持って、闘つていることであり、在外のパレスチナ革命と意識的な呼応を目指したものであることをいましょう。

三、
パレスチナ・アラブ人民の蜂起勝利万歳！
パレスチナ人民と日本人民の戦闘的連帶万歳！
三・三〇土地の日集会の成功万歳！

一九八八年三月三〇日
日本赤軍

連の大韓航空機行方不明事件でのK CIA-CIAー日本公の反「テロ」キャンペーンと一体のものとしてある。

これらの策動は、ソウル・オリンピックの開催を要とする日韓米の極東反革命同盟の質的な転換に対応して、国内世論の形成を計ることを狙つたものである。極東反革命同盟の質的な転換とは、日帝が、米帝の反革命の支柱としての役割を積極的にかたがわりすることをとおして、帝國主義としての延命を計る道に乗り出することを意味している。そのためには、国民を一層反共・反革命へと動員し、国内の進歩的、民主的勢力を革新的勢力を一掃することが重要となこととしてある。これは、一連の天皇制の強化のキャンペーンと一つになつて、日本を暗黒の時代に突入させている。こうした策動を許してはならない。

四、
ファシショ的方法によつて、人民の闘い、革命的勢力の闘いを庄殺し、国内にとどまらず、世界各地で取材と称する検査を行つた。こうした公安、そして、マスコミは、ジャーナリストを装つた公安として、國內にとどまらず、世界各地で

一、
丸岡同志の逮捕もまた、まったく不當なものであった。マスコミは、逮捕の不當性については、一切触れず、公安の流すデマを連日のよう書き立てた。

マスコミは、公安の流すデマを競り開いたパレスチナ革命との戦士的連帶を堅持し、パレスチナ・アラブ人民の蜂起に応えて、さらに国際主義者としての役割を果たし、決意です。敵がどのように強力であろうと、どのような弾圧を加えようとも、人民は不敗であることをパレスチナの蜂起は教えています。人民の不屈の意志と統一した行動があれば、必ず敵を打ち倒すことができます。敵がどのよう

した。

そして、パレスチナ革命においては、PFLPをはじめとする旧民主同盟を軸としたパレスチナ革命の指導部の統一の努力として闘われ、昨年四月のPNCの統一大会での再統一を果たしてきました。

パレスチナ革命の置かれたこの困難な情況に対し、被占領地人民は、立ち上がり、投降主義を拒否し、自らの手で民族の解放を勝ちとる意志を表明したのです。この闘いは、アラブ反動の投降主義へのなだれ込みを粉碎したにとどまらず、米帝の中東支配の野望を破産させています。

そして、シオニストの占領政策を破産させ、シオニストを深刻な分裂に追いやっています。そして、パレスチナ革命の正義を世界に理解させました。これは、パレスチナの闘いがした。「テロ」であり、PLOが「テロリスト」であるという米帝とシオニストのデタラメを暴露し、米帝、シオニストこそがテロリストであることを国際世論に対して明らかにしました。

これは、まさにパレスチナ人民の偉大な勝利であり、同時に、世界の反帝勢力の勝利です。そして、パレ

スチナ人民の蜂起は、フィリピン人の闘い、韓国人民の闘い、エル・サルバドルを始めとする中・南米人民の闘いが情勢を主導する時代を切り開いています。

二、
パレスチナ・アラブ人民の蜂起への直接的連帶行動に止まらず、ともに、人民が主導する時代を切り開くことでもあります。

とりわけ、日本帝国主義が、米帝との間で激化している帝国主義間矛盾の緩和と日帝自身の政治的、軍事的影響力の拡大のために、破綻していく米帝の世界支配を積極的に支え、補完しようとしていること。それは、日帝が米帝と並んで世界人民の第一の敵として、登場していることを意味しています。

中東においても、米帝のガルフ戦争への軍事介入に対し、直接的、間接的支援に止まらず、生命線である米帝の援助を期待できなくなつたシオニスト「イスラエル」への経済協力を進めるなど、破綻している米帝の中東戦略を積極的に補完しています。

これは、極東での日米韓反革命同盟の強化と一体のものとしてあります。

三、
パレスチナ・アラブ人民の蜂起勝利万歳！
パレスチナ人民と日本人民の戦闘的連帶万歳！
三・三〇土地の日集会の成功万歳！

一九八八年三月三〇日
日本赤軍

一、
丸岡同志の逮捕もまた、まったく不當なものであった。マスコミは、逮捕の不當性については、一切触れず、公安の流すデマを連日のよう書き立てた。

マスコミは、公安の流すデマを競り開いたパレスチナ革命との戦士的連帶を堅持し、パレスチナ・アラブ人民の蜂起に応えて、さらに国際主義者としての役割を果たし、決意です。敵がどのよう

- ガザ
「イスラム抵抗運動」が、一三、一四、両日のゼネストを呼びかけ、スト破りの全車輌に対し投石するとの警告（ビラ配布）。ガザ地区も、本日、商業スト。
- ガルフ戦争
南部のパレスチナ・キャンプは、昨日のUNRWIA職員誘拐抗議デモ。UNRWIAはレバノン南部からの大外人職員撤退を始めた。
- 東エルサレムでは、商業スト。
- ガザ
トルクラムで、イスラエル兵の「誤発」により、パレスチナ人一名が射殺された。

- シリア外相、米国務省近東・北アフリカ局長マーフィー和平案（四月に国際会議開催）を拒否。あいまいであること、部分的でしかなわないことが根拠。
- レバノン－シリア
- 二月一四日（日） イスラエルによるゴラン被占領地併合六周年
- パレスチナ人民の蜂起
- イスラエルの反戦運動、潮流
- 「ピース・ナウ」が集会・デモ。イスラエル国会議員、現役予備兵将校も参加し、「不正規な指揮」拒否、鎮圧命令拒否を初めて訴えた

- 被占領ゴランで、シリア人が併合拒否、パレスチナ人民の蜂起連座ストに入った。イスラエル軍、警察と衝突し、多数の負傷者、逮捕者を出した。
- ガルフ戦争
- トルコ首相、カイロで、ムバラクと大統領と会談。
- 二月一五日（月）
パレスチナ人民の蜂起
● 被占領地人民蜂起統一民族指導部指令第七号が出された（数千枚のビラ配布）。イスラエルの被占領機関に働くパレスチナ人に対し、職場放棄、辞任して、蜂起に参加するようアピール。二万人が対象

- アル・アウタ・キサンヘーン
キプロスで、アル・アウダ用の船
が爆破された。イスラエルの極右
カハネ・グループを名のるグルー
プが責任を表明した。「次は、乗
組員、乗客もろとも爆破する」と
通告。
- ラビン国防相、PLOの帰還船の
イスラエル領海入りをあらゆる手
段で阻止すると語った。爆破事件
については触れず。
- シヤミル首相、伊訪問（三日間）。
- アルジエリア外相、ダマスカス訪
問。
- ヨルダン、米の新中東和平案検討
にむけ、特使派遣をPLOに要請
・ 国連人権委員会、イスラエルの被
占領地弾圧非難決議採択。ジュネ

●トルコ首相、四日間のエジプト公式訪問開始。
二月一二日（金）
パレスチナ人民の蜂起
西岸
ナブルス近くで、パレスチナ人責

●トルコ首相、イラン、イラク両国を訪問して、停戦の仲介を行うべしと発表（カイロで）。

●イラク、二隻のタンカーを攻撃したと発表。

(二月五日、イスラエル軍が四人のパレスチナ人青年を殴打したうえに、ブルドーザーで生き埋めにした。村人が掘り出し、やっと蘇らせた。) イスラエル警察、同事件の調査に着手。

- 西岸サリム村の「生き埋め事件」容疑者のイスラエル軍曹、兵各一名が逮捕された。
- 軍の指揮拒否アピール問題

- ラビン国防相、ショムロン参謀総長、閣議に対し、蜂起收拾の展望が立たないと報告。
- イスラエル実力者閣議、パレスチナ・ピース・ボート・キャンペーンへの対応を検討。一五日にハイファ港入港予定で、ハイファには歓迎委員会が組織されているという報道あり。
- シャミル首相、スペイン紙とのインタビューで、被占領地からの完全撤退交渉を行う用意ありと語る。マーフィー、シリアで、シリア外相と会談。
- ヨルダン国王、西独入り。

- ヤドと一緒に拉致されたいとこ（八歳）も、両腕を折られた。このニュースがひろがり、ヌセイラート等で激しい抵抗があり、イスラエル軍は、これに発砲多数が負傷。
- ボンで開催されたEC外相会議は、イスラエルに対し、被占領地の暴力鎮圧の仕方が国際法違反と批判的ヨルダン国王、EC外相会議に参加。
- マーフィー、シリアのアサド大統領と会談。その後、サウジへ。
二月九日（火）
- パレスチナ人民の蜂起
- 西岸トルクラム近くの村で一六歳の少年の射殺死体が発見された。

- 西岸のラマッラでは、反占領モニに参加していた米国の女性教師が、ゴム弾でイスラエル軍に射された。別の米国人教師二名も逮捕されかかった。
- ヨルダンから、アル・アウダ・ヤンペーン参加のため、二〇〇一月一〇日（水）がアテネへ。
- シヤミル首相、アル・アウダ・ヤンペーンを非難。
- マーフィー、イスラエル入り。

二月一〇日（水）

パレスチナ人民の蜂起

- 昨夜、西岸のカルキリヤ町をイスラエル軍、入植者が襲撃したのに抗議し、東エルサレム、ハルフ
- 一月に射たれて入院中のガザの青年が、死んだ。

（今回の蜂起で、エジプトからの
潜入作戦、第一回め）

- PLOのアル・アウダ（「帰還の
船」）キャンペーン。パレスチナ
人、イスラエル人（国會議員含む）、
米国のラビ（ユダヤ教司祭）、各
国マスコミが乗りくみの準備を進
めていた。ハイファには、帰還歓
迎委員会が作られているとの報道
レバノン
- 南部で、UNRWA職員の北欧人
二名が誘拐された。
- ガルフ戦争
- イラン、革命記念日に際し、イラ
クに勝つまで戦争を続けると表明。
• イラン、ノルウェー・タンカーを
攻撃し、炎上させた。

激動の中東

二二

とによって、人民主権と非同盟・自由立の日本の実現のために、日本人人民の闘いの一部として、共に闘いぬく

● パレスチナ人民の蜂起
● 西岸ナブルス近くのカフル・カバ
ム村で、一人が射殺された。明

ガザでは、イスラエル軍に頭部を殴られた少年が死亡。今週、イスラエル軍に殴られて殺されたのは

ル（ヘブロン近く）、ナブルス、トルクラム、およびガザで数千人のデモ。投石、火炎びんで、イス

- 国議会が昨年一二月二一日に可決し、レー・ガン大統領も調印了。三月二一日から発動する)を、国連総会を開いて討議するよう、正式に要請。
- ガルフ戦争
- ガルフ配備の英艦隊の一部、撤退を始めた。
- 二月二〇日(土)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のトルコラムで一二歳の少年が射殺された。イスラエル軍は、負傷者が病院へ運びこまれていくのを追いかけ、病院に催涙弾をうちこむ。
- 二月二一日(日)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸ナブルスで二名、ディエル・アンマル・キャンプで一名が射殺された。
- イスラエル軍、ヘブロン近くのザアト村に外出禁止令をしき、二三名のパレスチナ人を拉致。
- ガザでも、衝突。数名が銃撃をうけ負傷。
- ラビン国防相、初めて今回の蜂起を「内戦」と規定した。
- 西岸、ガザの蜂起鎮圧実情調査秘報告書中、現場のイスラエル軍

- ガルフ戦争
- ガルフ配備の英艦隊の一部、撤退を始めた。
- 二月二〇日(土)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のトルコラムで一二歳の少年が、ラマッラでも二〇歳の青年が射殺された。イスラエル軍は、負傷者が病院へ運びこまれていくのを追いかけ、病院に催涙弾をうちこむ。
- 二月二一日(日)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸ナブルスで二名、ディエル・アンマル・キャンプで一名が射殺された。
- イスラエル軍、ヘブロン近くのザアト村に外出禁止令をしき、二三名のパレスチナ人を拉致。
- ガザでも、衝突。数名が銃撃をうけ負傷。
- ラビン国防相、初めて今回の蜂起を「内戦」と規定した。
- 西岸、ガザの蜂起鎮圧実情調査秘報告書中、現場のイスラエル軍

- ガルフ戦争
- ガルフ配備の英艦隊の一部、撤退を始めた。
- 二月二〇日(土)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のトルコラムで一二歳の少年が、ラマッラでも二〇歳の青年が射殺された。イスラエル軍は、負傷者が病院へ運びこまれていくのを追いかけ、病院に催涙弾をうちこむ。
- 二月二一日(日)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸ナブルスで二名、ディエル・アンマル・キャンプで一名が射殺された。
- イスラエル軍、ヘブロン近くのザアト村に外出禁止令をしき、二三名のパレスチナ人を拉致。
- ガザでも、衝突。数名が銃撃をうけ負傷。
- ラビン国防相、初めて今回の蜂起を「内戦」と規定した。
- 西岸、ガザの蜂起鎮圧実情調査秘報告書中、現場のイスラエル軍

- ガルフ戦争
- ガルフ配備の英艦隊の一部、撤退を始めた。
- 二月二〇日(土)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のトルコラムで一二歳の少年が、ラマッラでも二〇歳の青年が射殺された。イスラエル軍は、負傷者が病院へ運びこまれていくのを追いかけ、病院に催涙弾をうちこむ。
- 二月二一日(日)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸ナブルスで二名、ディエル・アンマル・キャンプで一名が射殺された。
- イスラエル軍、ヘブロン近くのザアト村に外出禁止令をしき、二三名のパレスチナ人を拉致。
- ガザでも、衝突。数名が銃撃をうけ負傷。
- ラビン国防相、初めて今回の蜂起を「内戦」と規定した。
- 西岸、ガザの蜂起鎮圧実情調査秘報告書中、現場のイスラエル軍

- ガルフ戦争
- ガルフ配備の英艦隊の一部、撤退を始めた。
- 二月二〇日(土)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のトルコラムで一二歳の少年が、ラマッラでも二〇歳の青年が射殺された。イスラエル軍は、負傷者が病院へ運びこまれていくのを追いかけ、病院に催涙弾をうちこむ。
- 二月二一日(日)パレスチナ人民の蜂起
- 西岸ナブルスで二名、ディエル・アンマル・キャンプで一名が射殺された。
- イスラエル軍、ヘブロン近くのザアト村に外出禁止令をしき、二三名のパレスチナ人を拉致。
- ガザでも、衝突。数名が銃撃をうけ負傷。
- ラビン国防相、初めて今回の蜂起を「内戦」と規定した。
- 西岸、ガザの蜂起鎮圧実情調査秘報告書中、現場のイスラエル軍

使節を送り、対処せざるをえなくなつた。レー・ガン政権は、しかしながら、我が人民の声を明確に理解して出されたその国際的孤立を終わらせることであった。

米政権はまた、パレスチナの内と外の我が人民の間に、そして我が人民とパレスチナ人民の唯一合法的な代表であるPLOによって代表され、蜂起を失敗させ、蜂起によつて創り出されたその国際的孤立を終わせることであった。

エル」を現状から救い出すために、エーリーを現状から救い出すために、蜂起を失敗させ、蜂起によつて創り出されたその国際的孤立を終わせることであつた。

その結果はどうか? そしてシユルツは何を成し遂げたか?

西岸とガザの我が英雄的人民が明確な回答を出した。シユルツ訪問の意図の裏をかくことで、米政権に強烈な一撃を与えた。つまり、パレスチナの内と外が共に統一した立場をとり、自分たちの全面的権利の回復への決意を示威し、その唯一合法的代表であるPLOへの忠誠を保持しつつ、パレスチナ人民は自らの運命を自らの手で決定していくことが可能であることを自ら証明した。

我が人民は、統一した決意と立場を表明した。すなわち、シユルツとの会談拒否、そのいかがわしい提案拒否、占領の拒否、PLO支持、蜂起強化支持、民族自決支持、パレスチナ独立国家支持。

我が人民は、殴る、殺す、追放、逮捕、手足を折るという鉄拳政策に

もかかわらず、蜂起をさらに拡大するだろう。この政策はファシスト、人種差別主義者シオニスト実体の本性を世界中に明確に示した。

この蜂起は、その失敗を狙つた米政権、エジプト、ヨルダン政権のさまざまの画策にもかかわらず、持続、拡大していくだろう。こうした策謀が今後も続くことは明白である。だ

からこそ、我々PFLPは、それに留意するよう我が大衆に呼びかける。

我々は、これらの策謀の裏をかき、蜂起の政治的防衛を整えるために、PLO指導部の正しい政治路線を堅持することの重要性を強調する。こ

れは、中東におけるレー・ガン政権案に對決し続けることによって成し遂げられるだろう。

蜂起開始から三ヶ月を期して、PFLPは、西岸とガザの我が人民に、大衆的闘いを拡大すること、統一した民族指導部のもとに結集すること、題化。

アラブ連盟の特別外相委員会(サウジアラビア、シリリア、ヨルダン、アルジェリア、チュニジア、イラク、PLO政治局長、クレイビ会長)は、国連安保理、ECと接触し、蜂起問題、イスラエル軍に対する被占領地からの撤退要求を計つていくことを決定(昨日)。

東エルサレムのシニオラ、ローマン・ABC・TV局の番組で、ペレス外相、中東和平国際会議支持。

Oのみと主張。パレスチナ人のシニオラは、賛成するも、パレスチナ代表は、PLO

の批判を事実無根と拒否(ダムダム弾使用、背後至近距離からの銃撃)。

レバノン

ヒギンズ米海兵隊大佐誘拐事件

①イスラエルの南部からの撤退、②レバノン、パレスチナ人捕虜の釈放、③米の介入中止、④レー・ガン大統領の被占領地人民への敵対中止を要求するビデオテープが発表された。世界の被抑圧者機構

ガルフ戦争

イラク外相訪中。対イラン武器禁輸措置への協力を要請。

米海軍長官、米予算案の軍事費削減決定に抗議し、辞任。

イラン副内相、トルコへ。国境一

クルド・ゲリラ問題討議のためとされる。

二月二三日(火)パレスチナ人民の蜂起

二月二四日(水)パレスチナ人民の蜂起

二月二五日(木)パレスチナ人民の蜂起

二月二六日(金)パレスチナ人民の蜂起

二月二七日(土)パレスチナ人民の蜂起

二月二八日(日)パレスチナ人民の蜂起

二月二九日(月)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(火)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(水)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(木)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(金)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(土)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(日)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(月)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(火)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(水)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(木)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(金)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(土)パレスチナ人民の蜂起

二月二日(日)パレスチナ人民の蜂起

<p

- アブ・ラハメ、西独へ。
 - イスラエル閣議、被占領地政策——中東和平問題で一致できず。早期選挙でも、一致できず。
 - シュルツ米國務長官、フセイン国王とロンドンで会談。
 - ガルフ戦争
 - イラク、この二四時間でテヘランに一七発のミサイル攻撃を行ったと発表。また、テヘラン訪問中のトルコ首相の安全脱出のため、途中数時間、攻撃を停止した。
 - イラク、バグダッド市民に避難勧告。
 - ホメイニ師、この都市攻撃は、米帝がしくんだもので、対イラク武器禁輸措置を強行するもくろみとつながっていると語った。
 - iran、ソ連がイラクに売ったミサイルがうちどれているとしてソ連に抗議。

- P L O 国連代表によれば、今回の蜂起で殺されたパレスチナ人は一三一人にのぼる。シユルツ米国務長官、N A T O サミット出席中のレーガン大統領に中東工作を報告。レーガン大統領シユルツ国務長官が中東再訪を明日から行うと発表。

月三日（木）

レスチナ人民の蜂起
西岸南部のヘブロンで、イスラエル人学生がナイフで刺され、軽傷
イスラエル軍、付近のパレスチナ人七五人を虐行。

西岸南部のヘブロンで撮映中のロイター特派員夫妻、入植者に襲撃され、負傷。
P L O のカドゥミ政治局長、仏入り。
アルジェリアーチュニジア共同声明で、パレスチナ人民の蜂起支援にむけた緊急アラブ首相会議開催ヨルダン国王と会談。

米国務長官シユルツ、ロンドンで
P L O のカダウミ政治局長、オーストリアへ。
覧会不参加を決定（九年ぶり）。

- 国のみが反対して決議採択。またハーベの国際法廷に調停を依頼する決議は、全会一致で採択された。西側報道陣を西岸からしめ出した。「軍管区」指定し立ち入りを禁止。
 - ガルフ戦争
 - ・イラク、テヘラン、コム等をミサイル攻撃。コム攻撃は、七年間で初めて。
 - 三月四日（金）
 - ・パレスチナ人民の蜂起
 - ・西岸北部で一名、ベツレヘム近くの村で一名が射殺された。西岸、ガザ全般に激突。
 - ・ガザのデイル・エル・バラハ・キャンプに入っていたイスラエル軍が爆弾攻撃をうけ、数名が負傷した。
 - ・エルサレムで、車爆弾未遂。ファタハが「シユルツ米国務長官を狙つた」と声明。
 - ・西岸のラマッラ近郊のジャラズーン・キャンプで、イスラエルの手先一味が罪を告白した。四人がイスラエルの警察を辞職。
 - ・UAE紙上、米の国連代表ウォルターズが、「パレスチナ人の要求に耳を傾けねばならない。また、

For more information about the study, please contact Dr. John P. Morrissey at (212) 305-6000 or via e-mail at jmorrissey@nyp.edu.

- ・ シュルツ米国務長官、中東再訪。
とする米政府のやり方には反対」と表明。
 - ・ ガルフ戦争
 - ・ イラン－イラク都市攻撃激化。
 - ・ 米政府筋、エジプトに対するM－1タンクのノックダウン（五〇〇台）製造許可を議会にかけていると発表。
 - 三月五日（土）
パレスチナ人民の蜂起
 - ・ 昨日うけた銃傷で、二人が死んだ。
 - ・ 西岸では、二名がイスラエル軍に射殺された。
 - ・ 西岸のジャラズーン・キャンプに、二〇〇〇人のイスラエルのヘリ空挺部隊が降下、襲撃。二名が射殺された。ローラー作戦で、一〇歳から五〇歳の男性を狩り出し、UN RWAの学校に集めて、目かくしし暴行。五〇名を拉致。
 - ・ ガザのカーン・ユニスでは、イスラエル軍の発砲で四人が負傷した。
 - ・ ファタハ中央委員会で、蜂起支援の「重要な措置」を決めたと、アラファト議長が発表。

- イスラエル、ガザでは本式の爆弾が使われだしたと発表。ガルフ戦争。

 - ・イラン、イラク北部の油田地帯の中心キルクークを攻撃。
 - ・イラン駐日大使、日本外相と会見。対イラン武器禁輸問題で申し入れ。日本側は、停戦決議がうけ入れられないなら、制裁条項の実行にならざるをえないとの反論。
 - ・トルコ、軍参謀長官率いる大型軍事使節団をエジプトへ派遣。

二月二十五日（木）

 - ・パレスチナ人民の蜂起
 - ・西岸、ガザ全般で、ゼネスト。シユルソ米国務長官のイスラエル訪問に抗議。
 - ・西岸で、少なくとも二名が、胸を

ガ パー

- エジプトの「パレスチナ蜂起強化委員会」は、アル・アウダ・キヤンペーンの補佐として、むこう三カ月間でエジプト、シリア、ヨルダン、レバノンからイスラエルへ平和行進する計画を発表した。

一月二六日（金）

レスチナ人民の蜂起

四人が殺された。モスクでの礼拝後、イスラエル軍との衝突が西岸ガザ全般であった。

昨日のイスラエル軍によるリンチ場面、世界中に放映され、非難がまきおこった。問題の将兵四人は夜逮捕された（政府、軍内で、この問題への対応をめぐり、論争がある）。

卷之三十一

- 要求した。シリアでは、シユルツ
米国務長官は、ヒギンズ米海兵隊
大佐の釈放へむけた協力をも依頼
したとされる。
 - ガルフ戦争
 - イラクがテヘランを砲撃。これに
対し、イランもバスマを砲撃（「イラク
ン—イラク都市戦争のスタート」）。
 - トルコ首相、三日間のテヘラン公
式訪問開始。

（右）云々に横隊、

- 訪（今回のシユルツ米国務長官中東訪問時に殺されたパレスチナ人は一一名にのぼるとされる）。

ガルフ戦争

 - イラン、イラクの都市戦争激化。
 - エジプト空軍司令官、クウェートへ。

三月一日（火）

パレスチナ人民の蜂起

 - 被占領地人民蜂起統一民族指導部指令第八号を出し、むこう一〇日間の戦術指示を出した。すでに八人が殺されたと発表。
 - 西岸南部では、右翼入植者との攻防戦。中央部でも、右翼入植者と人との攻防。
 - イスラエル、五カ村、一キャンプに外出禁止令を出した。

の回答を要請した』

ガルフ戦争

- ・オランダ国防相、UAE入り。

レバノン

- ・国民自由党（アハラール）党首ダニー・シャムーンが大統領に正式立候補し、政見文書も公表。

三月六日（日）

- ・パレスチナ人民の蜂起
- ・西岸のアスカル・キャンプで一人死んだ。
- ・八歳の少年が射殺された。
- ・三日前、うけた傷が原因で、ガザで

- ・ガザのシファ病院にイスラエル軍が突入し、銃撃された傷の手当をうけていた数人（子供含む）を拉致した。

- ・テヘランで、ソ連大使館に抗議デモ。ソ連がイラクにミサイル売却したと、イラン人民、怒る。

三月七日（月）

- ・パレスチナ人民の蜂起
- ・西岸のイドナで、イスラエル軍用車に手榴弾が投げられた（手榴弾は、初めて）。イスラエル軍、無差別にうちまくり、七人を負傷さ

ガルフ戦争

- ・西岸のイドナで、イスラエル軍用車に手榴弾が投げられた（手榴弾は、初めて）。イスラエル軍、無

- ・西岸のイドナで、イスラエル軍用車に手榴弾が投げられた（手榴弾は、初めて）。イスラエル軍、無

せた。

イスラエル

- ・イスラエルのネゲブ砂漠北部で、（バス）乗つとり。今回の蜂起で逮捕されたパレスチナ人全員の釈放を要求。イスラエル軍は、コマ

- ンドが人質一名を処刑したとして、

- 襲撃。コマンド三人、人質二名が殺された（エジプト領から潜入したとされる）。イスラエル、「バ

- ス乗つとりなどは、和平過程への挑戦だ」と、非難。

- ・PLOのアラファト議長、「全国連決議承認（二四二、三三八を含む）の準備あり」と発言。

- ・デモで二名が射殺された。

- ・ペツレヘムのパレスチナ人警官一

- 名が、撲殺されているのが発見さ

- れた（イスラエルの手先に対する攻撃は、これで二件め）。

- ・欧洲議会、ECとイスラエルの貿易合意の批准に関し、初めて票決

- し、批准に反対。イスラエルは、

- 年間五〇〇〇万ドルの損害。

- ・PLO政治局長カドゥミ、トルコ入り。

- ・ファタハのアブ・ジハド、アンマ

- ンへ。

- ・PLO政治局長カドゥミ、トルコ

- 入り。

- ・レバノン大統領選挙問題

- ・米特使が、シリア入り。来週は、

- マーフィー米国務省近東・北アフ

- リカ局長がシリア入りし、すでに

- ・ジエマイエル大統領がモスレム民

- 族派側に提起したレバノン政治改

- 革案への回答をうけとるとされる。

- ・ソ連、国連安保理に緊急動議。国

- 連総長の斡旋で、イラン－イラク

- 二〇日前後）保安措置につき、親

- 書を送った。内容は非公開。

- ・米のNASA（宇宙航空局）、モ

パレスチナ人民の蜂起

- ・西岸のラマッラ、東エルサレム等で、国際婦人の日のデモ。イス

- ラエル軍は、無防備のパレスチナ婦人デモに催涙弾をうちこみ、多

- 数を負傷させた。

- ・被占領地人民蜂起民族統一指導部の呼びかけに応え、「烈士の日」を記念し、西岸、ガザでゼネスト。

- ・西岸南部のヘブロンと近くの入植村とで、右翼入植者がパレスチナ人の車を焼きうち、これへの反撃。

- ・右翼入植者が一名を射殺し、介入したイスラエル軍がさらに二名を射殺。

- ・行政管理区（被占領地を、イスラエルは、こう呼ぶ――編注）

- ・スラエルは、こう呼ぶ――編注）文相、来週からの小・中・高・大

- ・イスラエル軍、西岸南部ヘブロン近くのドヘイシャ・キャンプをへ

- ・シャミル首相、七月早期選挙をうち出し、イスラエル政府内の対立

- を、総選挙にもちこむ構えを見せた。

- ・ガルフ戦争

- ・シリアのアサド大統領、シュルツ

- 「新和平案」は、キャンプ・デービッドの焼き直しとして批判。

- ・ファハド国王、トルコ大統領に対

- し、八八年度のメツカ巡礼（七月

- 二〇日前後）保安措置につき、親

- 書を送った。内容は非公開。

- ・オランダ国防相、サウジアラビア

ロッコの元米軍空軍指令基地再使用にむけた工事着工を発表。

三月九日（水）

- ・パレスチナ人民の蜂起（四ヶ月に入

- る）

- ・パレスチナ人民の蜂起

- ・西岸のラマッラ、東エルサレム等で、国際婦人の日のデモ。イス

- ラエル軍は、無防備のパレスチナ婦人デモに催涙弾をうちこみ、多

- 数を負傷させた。

- ・被占領地人民蜂起民族統一指導部の呼びかけに応え、「烈士の日」を記念し、西岸、ガザでゼネスト。

- ・西岸南部のヘブロンと近くの入植村とで、右翼入植者がパレスチナ人の車を焼きうち、これへの反撃。

- ・右翼入植者が一名を射殺し、介入したイスラエル軍がさらに二名を射殺。

- ・行政管理区（被占領地を、イスラエルは、こう呼ぶ――編注）文相、来週からの小・中・高・大

- ・イスラエル軍、西岸南部ヘブロン近くのドヘイシャ・キャンプをへ

- ・シャミル首相、七月早期選挙をうち出し、イスラエル政府内の対立

- を、総選挙にもちこむ構えを見せた。

- ・ガルフ戦争

- ・シリアのアサド大統領、シュルツ

- 「新和平案」は、キャンプ・デービッドの焼き直しとして批判。

- ・ファハド国王、トルコ大統領に対

- し、八八年度のメツカ巡礼（七月

- 二〇日前後）保安措置につき、親

- 書を送った。内容は非公開。

- ・オランダ国防相、サウジアラビア

- は、初めて）。イスラエル軍、無

- 差別にうちまくり、七人を負傷さ